

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	みやき町立中原小学校
1 前年度 評価結果の概要	各領域の重点目標に向かって全職員一丸となって1年間取り組んできた。保護者や地域の方の教育活動に対する理解と協力により、行事や学習活動が充実しており、児童が楽しく通える活気あふれる学校となってきている。学習、生活の面において児童に良い影響を与えていることが児童や保護者の意識調査からも確認することができた。昨年度から活学活用向上事業の県の指定を受け、算数科の授業改善にむけて研究に取り組んでおり、自ら学ぶ態度や対話活動で友達と共に学ぶ意欲が高まってきた。しかし、各項目における取り組みで一定の成果は見られたものの、課題も明らかになっている。この課題を全職員や保護者、地域の方と共有しながら、次年度はさらに効果的な指導の在り方を探り、実践していきたい。特に、心の教育と合わせて、児童の学力向上に向けた取り組みをさらに推進していく。
2 学校教育目標	「心豊かに たくましく 賢い風の子」の育成 ～ けじめをつけて、大活躍！！風の子中原小 ～
3 本年度の重点目標	① 豊かな人間性を育む。（感性豊かな子ども） ② 健康・体力づくりを推進する。（健康でたくましい子ども） ③ 確かな学力を育む。（自ら学び考える子ども）

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度（評価）	実施結果
	取組内容	成果指標（数値目標）			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・同学年で共通したマイプランを立てることにより、統一した指導が行えるようにする。 ・年に3回校内研修を行い、進捗状況を確認するだけでなく、教師間や学年間でのような取り組みをしているか共通理解を図り、参考にする機会とする。	A	・同学年で共通した、学力向上計画及び学力向上評価シート(学年のマイプラン)を立て、同学年で共通した指導ができた。 ・各学年の学力向上評価シートの成果指標のマイプラン達成率は目標を上回る83%であった。
	○主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善～「教える」「考える」「習熟させる」のメリハリのきいた授業～	○対話したくなる瞬間を引き出す授業づくりを行い、全員が研究授業に取り組む。	・低・中・高・なかよしの4学年部会で、全体授業研究会を実施し、話し合いたいと思う課題設定の工夫に視点を置き、授業づくりの研修を深める。 ・研究の内容や方法について共通理解を図り、講師の先生の指導を仰ぎながら、対話的な活動を活性化させるための手立てを探る。	A	・低・中・高の3学年部会で、全体授業研究会を実施し、全職員が研究授業を行った。話し合いたいと思う課題設定の工夫に視点を置き、限られた状況のもとで効果的な対話的な活動を行うことができた。 ・学年部ごとに講師の先生の指導を仰ぎながら授業づくりを行い、本校の研究内容に迫ることができた。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○Q-Uを2回実施し、1回目より2回目の学級生活満足度が高くなるようにする。 ○Q-Uの結果を学級づくりに活用し、「友達に思いやりや気持ちをもって、勉強したり進んだりすると答えた児童80%以上	・自他を認め、尊重する態度を育てるために、クラスごとのあいさつ運動、行事毎に「光るところみつけ」を実施し、児童のがんばりや活躍を放送で紹介する。 ・各学級で道徳の時間を使い、人権課題に関する授業を行う。	B	・友達に思いやりや気持ちをもって、勉強したり進んだりすると答えた児童93%で意識していることが分かる。 ・「光るところみつけ」あいさつ運動を実施し、放送で紹介することで承認・称賛の場を設けることができた。 ・人権に関する授業はどのクラスも実施できた。 ・実施の必要な児童の共通理解を全職員で行った。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員が80%以上	・毎月、心のアンケートを実施する。また、日記でも情報を把握し、いじめの早期発見に努める。 ・迅速にいじめ防止対策委員会を立ち上げ、全職員でいじめを受けた児童の指導・援助の方策を立て、サポート体制をつくる。	B	・月末に心のアンケートを実施し、番長からの自分の言動について振り返りを行わせ、担任は、気になる記述に対して迅速に対応することができた。また、毎週水曜日に生徒指導委員会を開催し、気になる児童の行動等について迅速対応した。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員は100%であった。
●健康・体づくり	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童98%以上 ・朝食を毎日食べる児童97%以上	・給食の時間を中心に、各教科等との関連を図りながら、食に関する指導を実施する。 ・長期休業前の生活リズムに関する指導や、食育強化月間での生活リズムチェックを充実させる。 ・便り等を活用し、保護者への啓発を行う。	B	・給食の時間、授業、全校前会等、様々な機会、食に関する指導を継続して実施した。また生活リズムを振り返るチェック表定期的に行い、便りや学校HPを活用して家庭へ啓発を行った。その結果、「健康に食事は大切である」と考える児童は100%であった。その一方で、朝食を欠食する児童は固定しており、行動実態には至らなかった。
	○体力向上の具体的実践	○県のスポーツチャレンジの参加学級、参加種目を増やす。	・各学級3種目以上挑戦するよう呼びかけ、9割の学級で達成できるようにする。 ・学校全体で26種目以上に挑戦するようにする。	C	・新型コロナウイルスの影響により、挑戦できない種目が多くあったが、縄跳びや外遊びの体力をつける運動は各学級で実施できた。スポーツチャレンジ挑戦学級12学級
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定し、退勤時刻までに優先順位を考えて効率的に業務を行う意識を高める。	C	・定時退勤日には、早めに退勤する職員が増えてきたが、時間外勤務時間の削減に直結しているとは言えない状況である。来年度は校時表を見直して授業準備の時間を確保し、引き続き時間外勤務時間の削減に取り組む。
	○組織的な学校運営と教職員の連携促進	○時間を意識して校務に取り組んだ教職員80%以上達成。	・教職員の連携を促進し、効率化可能な校務を時短で実施できるようにする。 ・メリハリをつけた働き方を奨励し、時短意識を高める。	B	・時間を意識して校務に取り組んだ教職員は79%であった。意識は高まってきたため、効率化可能な校務をさらに検討し、メリハリをつけた働き方を奨励し、さらに時短意識を高めていく。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度（評価）	実施結果
	取組内容	成果指標（数値目標）			
○安全教育	○危機回避能力の育成と、安全指導の徹底	○防犯ブザー所持率90%以上達成 ○児童の交通事故0件達成	○毎月、防犯ブザーの所持、整備の啓発週間を設定し、児童、保護者の防犯意識を高める。 ○交通安全指導、登下校指導を通して、児童の交通安全への意識を高める。	B	・年度末時点での防犯ブザーの所持率は約85%であった。 ・交通安全指導や登下校指導により、児童の安全意識を高めることができ、大きな交通事故もなく、安全に登下校することができた。
○生徒指導	○凡事徹底	○「廊下で出会った人にあいさつをする」「くつ・スリッパを並べる」についてのめあてを達成した児童80%以上	・挨拶の奨励と児童の意識の向上を図るために、朝の登校の時間に、運営委員会や各学級の児童による「あいさつ運動」を行う。 ・縦箱やトイレに児童の意識が向く掲示をしたり、きれいに並んでいる箇所について称賛したりすることで、児童に対しての意識付けを図る。	B	・毎月2週目に、全校で「あいさつ運動」を行い、児童の意識を高めることができた。アンケートの結果「廊下で出会った人にあいさつすることができた」児童の割合は89%であった。 ・縦箱やトイレに正しい並べ方の掲示をするなど、児童の意識を高めることができた。アンケートの結果「くつ・スリッパを並べる」ことができた児童の割合は89.5%であった。
○学力向上	○学習規律の徹底	○「学習のきまり」「休み時間の過ごし方」について「守れている」と肯定的な回答をした児童80%以上達成。	・「学習のきまり」について掲示をし、常時児童に呼びかけ徹底をはかる。 ・「休み時間の過ごし方」を全校で共通理解し、落ち着いた態度で学習に向かわせる。	B	・学校アンケートの結果83.5%の児童が「学習のきまり」「休み時間の過ごし方」を守れていると回答し、学習に向かう姿勢が身に付いてきた。 ・年度途中であったが児童の実態をふまえ、毎月第一月曜日に学習準備できているかなタイムを設定し、準備の中身等、学習準備の徹底を図るようになった。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育					

5 総合評価・次年度への展望	<p>・各領域の重点目標に向かって、全職員一丸となって1年間取り組んできた。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、計画通りに実施できない行事等が多かったが、保護者や地域の方の教育活動に対する理解と協力により、可能な範囲内ではあるが行事や学習活動を充実させることができた。また、各項目において、中間評価実施後に、目標達成に向けて具体的方策を立てることができたため、一定の成果が見られた。</p> <p>・「学力の向上」の取組については、全職員で学力向上対策評価シートを活用しながら、マイプランを充実させ学年で統一した指導を行うことができた。また、「志を高める教育」についても全学年でキャリアパスポートの取組を実施したり、毎時間の振り返りにおいて教師が児童の成長を価値づけることで、児童の自信や意欲につながった。今後も心の教育と合わせて、学力向上に向けた取組を充実させていきたい。</p> <p>・「●健康・体づくり」「●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減」については課題があるため、効果的な指導や方策を探り、さらに取組を推進していきたい。</p>
----------------	---